第１回競技力向上対策委員会概要

期日：平成 28 年 5 月 19 日(木)17：30－19：00

場所：沖縄県体協スポーツ会館会議室

出席者

・副委員長(議長)瑞慶覧康博(沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課長)
・委員　　川上栄秀(沖縄県ボクシング連盟副会長)
・委員　　佐藤　新(沖縄県水泳連盟事務局長)
・委員　　宮本裕二(沖縄県レスリング協会理事長)
・委員　　上地義徳(一般社団法人・沖縄県サッカー協会専務理事)
・委員　　知念正和(沖縄県自転車競技連盟理事長)
・委員(欠席)　日越延利(沖縄県バスケットボール協会理事長)
・委員　　和宇慶勝則(沖縄県相撲協会会長)
・委員　　田里一美(沖縄県高等学校体育連盟理事長)
・委員(新)　仲程　正(沖縄県中学校体育連盟理事長)＊新委員
・委員　　三輪一義(琉球大学教育学部教授)
・事務局(司会)　金村禎和(沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興班長)
・事務局　　外間徳男(沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課)
・事務局　　桃原　優(公益財団法人沖縄県体育協会事業課長)
・事務局　　金城大輝(公益財団法人沖縄県体育協会)

1. 中学校体育連盟役員変更に伴う委員の入れ替わりがあり司会より新委員仲程正委員の紹介がありました。
   今回、委員長が欠けた状態のため、競技力向上対策委員会規則第 6 条の規定により副委員長が議長を務めました。

2. 報告・確認事項について事務局から説明がありました。
（1）企画提案型競技力向上対策事業実施団体選定の説明
（2）平成 28 年度競技力向上対策委員会実施計画についての説明
（3）国体情報についての説明
（4）平成 28 年度沖縄県競技力向上対策基本方針及び事業費の説明

3. 各委員からの意見交換がありました。

「競技力向上対策基本方針」について
・国体「ふるさと選手活用」を利用出来るような文言があっても良いと思う。
・他県から国体出場している選手達はなぜ沖縄から出場しないのかもしくは出来ないのか、内容を調査し分析した方が良い。
・進学や就職で本土に在住している選手達をより沖縄から国体出場させやすいように選手の受け皿、または環境を整える事が沖縄県の課題の１つである。

「県内大学支援」について
・まず沖縄県、各競技団体、県体協間での情報共有から始め、そこから成年種別の競技力維持向上につなげていく。

「高等学校強化推進運動部指定校との連携」について
・沖縄県教育庁保健体育課と沖縄県、県体協間で連携を図り情報を共有することから始め少年種別の競技力維持向上につなげていく。

「競技団体組織体制の効率化」について
・各競技団体には競技担当者と事務担当者を分けた分業制の元、意識的に行なってもらい、事務能力も競技力向上の一部であるという事を認識させる。

4.「継続審議事項」
競技力向上対策基本方針の抜本的な見直しが必要との事から

・各委員は「沖縄県競技力向上対策に関する意見」を６月 15 日までに沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課に提出する事で承認されました。

・各委員から提出された意見を基に（案）としてとりまとめ、（案）に対する意見を県内各競技団体からもらう事で承認されました。

・９月開催予定の第２回競技力向上対策委員会で上記の（案）及びとりまとめた意見を議論する事が承認されました。

作成者：公益財団法人沖縄県体育協会　事業課　金城大輝

第１回競技力向上対策委員会議事録

期日：平成 28 年 5 月 19 日(木)17：30－19：00

場所：沖縄県体協スポーツ会館会議室

出席者(色つけは欠席)

・副委員長(議長)　瑞慶覧康博(沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課)
・委員　川上栄秀(沖縄県ボクシング連盟副会長)
・委員　佐藤　新(沖縄県水泳連盟事務局長)
・委員　宮本裕二(沖縄県レスリング協会理事長)
・委員　上地義徳(沖縄県サッカー協会専務理事)
・委員　知念正和(沖縄県自転車競技連盟理事長)
・委員　日越延利(沖縄県バスケットボール協会理事長)
・委員　和宇慶勝則(沖縄県相撲協会会長)
・委員　田里一美(沖縄県高等学校体育連盟理事長)
・委員　仲程　正(沖縄県中学校体育連盟理事長)
・委員　三輪一義(琉球大学教育学部教授)
・事務局(司会)金村禎和(沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課)
・事務局　外間徳男(沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課)
・事務局　桃原　優(公益財団法人沖縄県体育協会)
・事務局　金城大輝(公益財団法人沖縄県体育協会)

＊以下、色つけ部分は継続審議、検討事項になります。

(司会：金村班長)

まず、中学校体育連盟の役員変更により委員の入れ替わりがありますので、ご紹介します。中学校体育連盟理事長　仲程正(ナカホドタダシ)委員です。

また、平成 28 年度の定期人事異動により、現在、競技力向上対策委員会の委員長は欠けた状態であります。公益財団法人沖縄県体育協会競技力向上対策委員会規則第 6 条の規定により本日は瑞慶覧副委員長が議長となります。

それでは、只今より平成 28 年度第 1 回競技力向上対策委員会を開催致します。

はじめに、瑞慶覧議長より挨拶をお願いします。

(瑞慶覧議長)

あいさつ

(司会：金村班長)
ありがとうございました。それでは議事の進行を瑞慶覧議長にお願い致します。
(瑞慶覧議長)
委員会次第に沿って進行します。議事についてですが、まず(1)の報告・確認事項について、事務局から説明を行ない、その後、(2)の意見交換という流れで進めていきたいと思います。それでは、報告・確認事項について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：外間)
(1)報告・確認事項の説明
①企画提案型競技力向上対策事業実施団体選定の説明
②平成 28 年度競技力向上対策委員会実施計画説明
③国体情報の説明
④平成 28 年度沖縄県競技力向上対策基本方針及び事業費の説明

(瑞慶覧議長)
ありがとうございます。只今の報告・確認事項説明のなかでご質問や意見等あればお願い致します。

ないようですので、意見交換に移りたいと思います。お手元に前回委員会の概要と議事録がありますが大きな内容 3 項ありまして、基本方針の内容を抜本的に見直す、継続審議を続けるために委員改選時には現委員の中から 3/1 程度残ってもらう、それから議事録を HP に掲載し公開する事となります。
また、意見交換の時間ですので各委員のみなさんから意見を頂戴すると共に、今回は進行資料内に「沖縄県競技力向上対策に関する意見」というページを設けていますのでそれぞれの意見を記入して頂き、それに基づいて次年度の競技力向上対策基本方針に盛り込んでいけるよう検討していきたいと考えております。
意見につきましては6月 15 日までに事務局に提出して頂きます様お願い致します。また、競技力向上対策基本方針以外にもご意見ありましたらお願いします。

Q：基本方針の中で国体のふるさと選手活用をもう少し出来るような手立てや文言もあって良いのかと思うところです。(宮本委員)

A：国体で沖縄からふるさと選手が出る際にもその選手に対して補助できる予算を付ける事も必要な事だと思います。その辺についても皆さんから意見を頂戴

して基本方針に文言として入れるように検討していきたいと考えております。(瑞慶覧議長)

Q:実際に沖縄出身だけれども国体になれば他県から出場してくる選手がいます。その選手は何故沖縄から出ないのか、もしくは出られない状況なのかアンケート調査を実施して分析した方がいいと思います。また沖縄から出場する事ができる環境作りも大切だと思います。(川上委員)

A:大変良い意見だと思います。ふるさと制度に関する今の意見を第2回委員会または、それ以前にでも議題として早めに検討していきたいと思います。(瑞慶覧議長)

Q:それと関連してやはり沖縄の受け皿作りも重要だと思います。国体には沖縄から出場したいと思っていても、進学や就職で本土に行けば所在する県から強化費として予算が出ているのでそこから出場せざるをえない状況があります。各競技団体に事前調査を実施して要因を調べてほしいと思います。(川上委員)

A:ありがとうございます。出来る事から変えて進めていきましょう。(瑞慶覧議長)

A:環境を整える事、沖縄県の大きな課題ですよね。(和宇慶委員)

Q:各都道府県の経済状況や人口比等沖縄と状況が似た都道府県がどのような取り組みをしているのか情報を調査して頂いて、参考にして沖縄に取り入れられればいいのかなと思います。(宮本委員)

A:こちらから各都道府県に投げかければ情報収集出来ると思います。場合によってはHP等からでも拾えると思います。それと関連して資料P14(10)の県内大学支援というのもありますので県内大学と情報交換しながら成年種別の向上を図っていきたいと考えております。また、(11)高校の強化運動推進運動部指定校とも連携してどちらも部分もまずはお互いに情報交換からして行きたいと思います。(12)の競技団体組織体制の効率化は各競技団体で競技担当と事務担当を分業しながら意識的にしっかりやって行きましょうとなっております。(瑞慶覧議長)

A:分業制は当たり前のことなのですが大切ですよね。我々(相撲協会)も今年からやっと分業制でやっていこうと言う事が決まりました。(和宇慶委員)

A：具体的に言うと事務能力は競技力向上の一部であると言う事。これはもう明確です。事務能力が低いと強化費がうまく回って行かないという事があります。ある競技団体は強化費を渡して強化させてあげたいのだけど、事務の部分でそれに耐えきれないのがある。一方でスポーツ医・科学サポートプログラムとも係わっていますがそちらもお金をつけました、でもうまく使えずに返還になった事例があります。公平に公正にやっていかなくてはならないので、競技団体の事務能力というのは当然競技力向上の一部であると言えます。(12)に関してはもう一歩突っ込んで考えていかなくてはならないと思います。どういった方法で事務能力を上げていくのかと言う事は我々が知恵を出さなきゃならないと思います。例えば具体的に書類の書き方等をレクチャーしたりして、事務能力の講習会をする等の手立ても必要だと思います。我々競技力向上対策委員としてどのような貢献が出来るのか、もしくは汗をかくことが出来るのかと言う事を考えたときに、事務局からの提案にもありましたが委員の意見を記入する用紙を設けているとありますが、その意見を集計、精査するワーキングチームを作っていけたらより具体的に(案)がまとまり、かつ委員は貢献できると思います。(三輪委員)

Q：ありがとうございます。9月に予定している第2回競技力向上対策委員会で改定案をだす予定になっています。6月の評議委員会で理事が替わりましてその後にまた競技力向上対策委員の選任が始まり、7月頃には出来上がるのですが、その前にワーキングチームを開いた方が良いのでしょうか。(瑞慶覧議長)

A：そうですね、改定案が完成する前の段階で集まった方が良いと思います。(三輪委員)

A：議論をする時間を多く取るつもりで9月 11月 3月と3回見直す時間を作っています、場合によっては9月の委員会はワーキングに近い形式で(案)を出していく事も可能ですが、皆さんはどちらの方がよろしいでしょうか。(瑞慶覧議長)

A：三輪委員の意見に賛成です。しっかりとした意見を集め、(案)としてあげていった方が良いと思います。また、本県の競技力向上対策の意見の聴取は委員皆さんだけではなく、全ての競技団体にアンケートを取り課題は何なのか聞き取って今言ったワーキングチームでまとめあげ良い方向性を作って方針に取り入れた方が良いと思います。(喜納委員)

A：「国体30位台を目指すにあたり」と言う意味である程度制限をかけてアンケート取った方が良いですね。(瑞慶覧議長)

Q：今回競技力向上対策委員としての２年間が終了します。集大成の意味も含めてこの 2 年間で私が疑問に思ったこと、改善して欲しいことをまずは委員としてまとめて提出して、それを踏まえた上で必要であれば各競技団体にも情報は共有した方が良いと思いますので、委員はまず各自提出して、事務局はまとめて議論できるような形でやって頂ければと思っております。(上地委員)

A：今ありましたように各委員からでた意見を基に話し合いして(案)をまとめまして、その際に(案)に対する意見という形で各競技団体からはアンケート取る様な形にしていってもらうとある程度(案)が出来ているので答えやすいと思います。初めの(案)作りの部分は委員の皆さんから意見を頂戴したいと思います。では、6 月 15 日迄に意見を事務局宛に提出して下さい。それでまとまりましたら 9 月の委員会は議論の場にしまして、ある程度形作りをして 11 月に(案)をたたきまして皆さんと再度調整すると言う事でよろしいでしょうか。(瑞慶覧議長)

(一同承認)

Q：ありがとうございます。本日は特に競技力向上基本方針の(案)についての話になりましたがこれ以外にも何か意見ありますでしょうか(瑞慶覧議長)

A：まずは皆様にお礼申しあげたいと思います。
3 月の全日本自転車連盟から発表がありました、リオデジャネイロオリンピック日本代表の 2 枠を本県選手が独占したことは非常に大きなニュースになり、県民の期待も高まっていると思います。どうもありがとうございます。
私の意見ですが、日本代表選手が出た背景や仕組みについてです。自転車選手は高校を卒業したら単身ヨーロッパに行くのですが、やはり海外に出ると練習は勿論、自活していかなくてはならないので自然と自力がついてきますよね。また、ヨーロッパ各地にはチームと選手間を取り次いでくれるまでのパイプ役のような役目をする日本人がいます。そういったサポート体制の基なので強化ができています。(知念委員)

Q：海外に行く際にパイプ役になる日本人がいると言う事なのですが、他の都道府県の選手にも同じようにサポートする方なのでしょうか、もしくは沖縄の人を考慮してくれる人なのでしょうか。(佐藤委員)

A：日本全国からの選手をサポートして、海外のチームに所属させるような方々になります。(知念委員)

A：ありがとうございます。他に何かありますでしょうか。
特になければ、今日の意見を踏まえ、また先ほどお願い致しました意見文を事務局に提出して、9月にはそれに基づいて議論していきたいと思っております。事務局の方から連絡あれば宜しくお願いします。(瑞慶覧議長)

(事務局：外間)
はい、先ほど瑞慶覧議長からもありましたが次回の競技力向上対策委員会から平成29年度の競技力向上対策基本方針の検討に入りたいと思います。
スムーズかつ議論を深めるために事前に競技力向上対策に関する委員の皆さんからの意見を頂きたいと考えておりますので9月開催予定の第2回競技力向上対策委員会で検討したいと思います。資料の33ページの様式になります。メールで頂きたい方は私の方にご連絡下さい。提出につきましては6月15日迄となっておりますので宜しくお願い致します。
委員の皆様このメンバーで揃うのは本日が最後となっております、本当にお疲れ様です、どうもありがとうございます。

A：次回新しく委員になる方には予め意見書や議事録等も含めて引き継ぎ出来るようにしていきたいと思いますので宜しくお願い致します。本日は、委員長不在のため私の方で議長を勤めさせて頂きました、どうもありがとうございました。皆様、2年間どうもお疲れ様でした。次回からは新委員長をはじめ目標達成に向けて頑張っていきたいと思いますので、委員を離れても本県の競技力向上の為にご協力どうぞ宜しくお願いいたします。どうもありがとうございました。では一旦司会に戻したいと思います。(瑞慶覧議長)

(司会：金村班長)
委員の皆様、本日は長時間に渡り慎重審議ありがとうございました。第2回は9月開催を予定しております。では、これをもちまして、第1回競技力向上対策委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。

記録・作成：公益財団法人沖縄県体育協会　事業課　金城大輝